



国宝 短刀 無銘 正宗 名物庖丁正宗 徳川美術館蔵

伝説の名刀が、ここに。

佐野美術館45周年・三島市制70周年 記念
名物刀剣 宝物の日本刀
2011.10.22[土]—12.18[日]

庖丁正宗「南泉一文字」…こんな名前の刀が存在します。これらは、「正宗」や「一文字」という刀の作者や流派の銘と、「庖丁」や「南泉」といった、刀の持つ由緒や持ち主の名、形の特徴を組み合わせることで名刀につけられた、特別な名前です。

神代の天叢雲剣や桓武天皇を守護した小鳥丸をはじめ、いつの時代も名將は名刀を求めました。特に戦国時代には、織田信長、豊臣秀吉ら戦国武將がこぞって名のある名刀を収集しました。

江戸時代中期には、八代將軍吉宗の命により、全国の大名が持つ名前がついた刀剣を集めた『享保名物帳』が編纂されました。この名物帳に記載された刀剣を「名物刀剣」と呼んでいます。

『享保名物帳』にある名づけの由来を見ると、「庖丁正宗」は庖丁のような形から、南泉一文字は、中国の南泉和尚が弟子に悟りを開かせるために猫を切った故事から名づけたとあります。「骨喰藤四郎」という刀は、足利尊氏の時代から「たむわに斬る真似をただで相手の骨が砕ける」と言われていたという伝説を持っています。

本展は、源平の武士が佩いた太刀から、信長、秀吉らが愛した名刀、『享保名物帳』所載の名物刀剣までが一堂に会す、空前絶後の展覧会です。名刀の背負う歴史や伝説を味わいながら、今も変わらぬきらめきをお楽しみください。

(学芸グループ主任 中村麻紀)



《蓋置 椿》個人蔵

自然の完璧な美しさを写したい

佐野美術館45周年・三島市制70周年 記念
陶の華 辻輝子の世界
2012.1.7[土]—2.26[日]



《飾篭 ごんずい》個人蔵

辻輝子さんは類稀な陶芸家です。自然を愛し、それを作品の大事なモチーフにするというのは、作家としてはよくあることですが、辻さんの場合は、自然の美しさ、造形のすばらしさを“そのまま”陶器に表現するのです。ふっくらと咲き誇る花びらのやわらかさや、弾ける実の可愛らしさと斬新な色

を、胎土と釉薬を用いて再現していきます。

辻輝子さんは、昭和45年、伊豆半島川奈の大自然の中に窯を築いてから、早朝の散歩とスケッチを欠かさず、春の花々、夏の深緑、秋の紅葉、冬の枯れ木立、自然の生み出した色と形とを、日本画によって培われた繊細な素描と独特の釉薬遣いによっ



《水指 ゆず》個人蔵

《香合 ときり豆》個人蔵



て、壺や箱、香合といった器物に作り上げてきました。その独自の創作世界は、特定の師に学ばず、多くの一流人たちとの交流の中で自ら努力して獲得してきたものです。日本の女流陶芸家として草分け的存在ながら、いわゆる陶芸史的なものには属さずきたゆえに、その半生を総括する回顧展は今回が初めてとなります。富本憲吉や北大路魯山人、浜田庄司、岡本太郎、土門拳、川端康成など、時の芸術家たちとの親交も紹介していきます。卒寿を記念しての展覧会ですが、今なお現役の作家として辻輝子の、世の中の美しいものを素直に厳粛に表現していきたいという姿勢に変わりはありません。その荘厳な作家人生に敬意を表して、この展覧会を企画しました。

(学芸グループ長 坪井則子)

豊岡武士三島市長に聞く「まちづくりと美術館」

佐野美術館45周年・三島市制70周年 によせて

—ちょうど佐野美術館が誕生した昭和41年(1966)、市長は大学を卒業され、行政への第一歩を踏み出したと伺っています。その頃の三島のことで特に記憶に残っていることはございますか。

私は大学卒業後、すぐに静岡県庁に入ったのですが、東部出身なので県全体を知るためにも一番西に行ってみようと言われて、浜松市の県事務所に勤務しました。結果的に7年ほど三島を離れましたが、

外から三島を見るのができた貴重な期間でした。

その頃の記憶に残っていることといえば、新幹線の駅が早く三島に出来ればと願っていたことと、産業、経済、文化、まちづくりという面で、三島を改善できないかと切望していたことです。大勢の人が三島を愛しています。だからこそのまちを何としても良いまちにし、後輩たちに残していきたいのです。今年の市制70周年の



キャッチフレーズも「次世代へ誇れる三島 まちづくり」です。三島市制100周年の時に、「先輩たちは三島を良いまちにしてくれたな」と思ってもらえるように、みなさんと一緒に頑張っていきたいと強く思っています。

—今後佐野美術館に何を求めますか。

私は今後のまちづくりとして、美しい「美島」、魅力ある「魅島」、味ある「味島」の三つを提唱しています。うなぎやみしまコロケなど、美味しいものがあればよそからも大勢人が来てくださり、ま

ちの活性化につながります。「魅島」は文化と歴史に磨きをかけて発信することを示します。この分野では、佐野美術館に大変期待をしています。そして「美島」は水と緑に加えてまち全体を花で飾るガーデンシティにするという計画です。楽寿園、三嶋大社、源兵衛川のせせらぎなどと、佐野美術館の庭園。このルートを皆さんに巡ってもらい、品格のある美しさで他のまちとの差別化を図ります。

幕末から明治時代にかけて、日本に来た外国人たちは、自然が美しく、まちが清潔である日本に感動したそうです。その事からも私は、まちは美しくなければならないと思うのです。潤いがあり、せせらぎがあり、緑と花がある美し

い三島を、多くの人に良いまちだと言ってもらえる、そういうまちにしたいと思っています。佐野美術館はそんなまちづくりのポイントの一つと考えています。そこを踏まえて市がどうサポートをできるか、今後研究をしていきます。

(聞き手/広報グループ主任 深沢香奈)

三島市長 豊岡 武士
Takeshi Toyooka

1943年静岡県三島市に生まれる。県立三島高校に進学。1966年日本獣医畜産大学(現・日本獣医生命科学大学)を卒業し、静岡県職員となる。1999年に静岡県議会議員に当選。3期務める中で、文教警察委員会委員長ほかを歴任。2010年12月20日、三島市長に就任。

重要文化財 刀 無銘 一文字 名物南泉一文字 徳川美術館蔵
重要美術品 《刀絵図》より骨喰藤四郎 本阿弥光徳筆 石川県立美術館蔵